ともしび

仏法に触れて

井上直之（釋直道）

二月十九日・二十日、お寺の壮年会のメンバーと、鬼怒川温泉で開催された「東京教区仏教壮年会連盟第三十七回結成記念日研修会」に参加してきました。

研修と懇親会を通して、たくさんの方々と親睦を深めることができて、とても充実した二日間でした。

さて、その研修会から帰ってきた私は妻と娘に会うわけですが、娘はなぜか全く私の方を見てくれません。たかが一泊二日私がいなかっただけで人見知り、いや、親見知りをするのです。

一歳十ヶ月になる娘は、そうやってどんどん知恵をつけてきました。時には叱って泣かせたり、時には変な顔をして笑わせたり……。そんな生活を毎日しながら、安らかに眠る娘の寝顔を見て「あぁ、子どもが生まれて父親になるのではなく、子どもが父親にさせてくれるんだなぁ」と、つくづく身に染みて感じます。

二月四日の立春拝賀式の日、婦人会のみなさんと楽しくお斎（とき）をいただいたりビンゴゲームをしながらも、どこか落ち着けない自分がいました。

お昼に連絡を取る約束があったのに、携帯電話を忘れてきたからです。夕方、無事用件はすみ、それでホッとした時に、私はふと思いました。

世の中とても便利になったけれども、私はその便利なものにいつも縛られて生きているのだなぁと。

確かに、どんな情報もその場で調べられる携帯のインターネットは便利です。常に持っているのが当たり前のものがないと、困ってしまいます。

鬼怒川にて　左端が住職

しかし、私たちがあることが当たり前と思い込んでいて、なくなったら本当に困るものは何でしょうか。

それは、携帯電話でもパソコンでも電子レンジでもなく、このいのちだと思います。

私たちのこのいのちが必ず尽きてしまうという理不尽な事実だけは、自分の力ではどうやっても解決することができません。

私たちは「死」という現実を恐れ、見ないふりをし、霊が帰って来ないように茶碗を割ったり、穢れだからと亡き方に清め塩をするなど、たくさんの迷信を生み出しました。

では「死」を見ないふりをするのをやめたら何の得があるのか、と問われそうですね。

仏教讃歌に「みほとけに抱かれて」という百年以上前に発表された亡き方を偲ぶ歌があります。歌詞は四番まであり、それぞれの最終行が「かなしさよ」「かしこさよ」「とおとさよ」「うれしさよ」と変化していきます。

大切な方がお浄土に往ってしまったことに、最初は悲しみしかないけれど、仏さまとなり私たちの仏縁となって、今は照らしてくださっているという尊さに目覚めていく、そういう内容の歌詞です。

このいのち尽きたらすべて無価値。すべて終わり。そう思って死を受け入れずに生きてきたが、実は無価値でも終わりでもなかったのだと、仏さまが気づかせてくださる、それが仏法に触れて生きていく世界だと思います。

永代経でお勧めする「阿弥陀経」に、青色、黄色、赤色、白色、それぞれがそれぞれの色で輝いていると説かれてあります。

永代経は、私たち一人ひとりのいのちは、常に仏縁に照らされている尊いいのちだとあらためて感謝ができる、大切なご縁の日であると思います。

婦人会 会長就任にあたり

嘉神佐智子

昨年三月、前任の久保幸子さんから引き継いで、宗願寺仏教婦人会の会長を務めさせていただいております。

急な指名で心構えも充分ではないままに、会員の皆さまにはご迷惑をおかけしていることと思います。

お寺では、毎月のように行事があり、そのお斎（とき）作りが婦人会の大切な仕事です。マスクや使い捨て手袋、頭には三角巾、衛生管理に気を配りながら、心を込めて調理します。「手作りのお斎（とき）は美味しいですね」の言葉を励みに、会員の皆さまと頑張っています。

東京教区や茨城西組の研修会に皆さまとご一緒することも、私の楽しみとなり、思いがけず充実した日々を過ごしています。

亡き夫がここに連れて来てくれたということを、常に感じています。ご縁という言葉の意味が胸に迫ります。

皆さまのご協力をいただきながら、微力ではありますが、お寺や会のために尽くせたらと思っています。

ひとりの力では何もできません。皆さまの力を借りながら進んでまいりたいと思いますので、これからもご協力のほど、よろしくお願いいたします。

お知らせ

宗祖降誕会
4月29日（土）　午前11時

花まつり（子ども会）
5月5日（金）　正午

大乗院釈弘三法師祥月法要
6月11日（日）　午前11時

あじさい忌
6月23日（金）　午前11時

全戦没者追悼法要
8月15日（火）　午後6時

恵信尼公法要と敬老会
9月16日（土）　午前11時

門徒推進員中央研修を受けて

平野　正子

平成二十八年十二月に、全国各地から集まった四十五人の仲間と、三泊四日の「門徒推進員中央研修」を受け、教習内容がとても充実されており、意義深い感動をいただいてまいりました。

門徒推進員とは、「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）を、門徒の立場から寺院との密接な連絡提携のもと、一般社会や日常生活に根差した実践運動を推進するもの」と定義にあります。

私のグループは七人で、島根、福井、広島、滋賀、福岡、鳥取の各県からの参加の人々が、四日間一緒にそれぞれのテーマに従い、本音でディスカッションをして全体会で発表をしました。地域の伝統、慣習等により、内容が大きく違っていたテーマもありました。

毎朝六時から、晨朝参拝は西本願寺の御影堂と阿弥陀堂で行われ、十二月の早朝はとても寒かったですが、身の引き締まった毎日でした。

三日目の夜は、参加者一人ひとり門徒推進員としての決意表明式が安穏殿で行われました。部屋の後部にスタッフ（僧侶）二十名くらいが正座され、照明はお燈明のみの灯りの中で、阿弥陀さまの前に各々が進み決意表明が厳粛な中で行われ、とても緊張しました。式後はスタッフ（僧侶）が通路に出られ、門徒推進員として送り出していただき、深い感銘を受けました。

これからは、お寺の門徒推進員として、先輩の田渕正大（仏教壮年会々長）さんの指導のもと、できることから始めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

壮年会行事に参加して

上岡　武男

お寺の行事は数々ありますが、その中で特に印象に残っているのは、昨年十月十八・十九日の茨城西組の実践運動現地学習会（仏教婦人会・寺族女性・連盟結成二十周年記念行事）でした。

一日目、草津にある国立ハンセン病療養所・栗生楽泉園を訪問しました。楽泉園は、ハンセン病患者の生活している施設です。私たちは見た目で人々を判断してしまうことが多々あります。ハンセン病患者の方々の心痛を思うと、国の政策により多くの人々の人生が狂ってしまうことがあると痛感しました。

特に重監房という特別病室、これは病室とは名ばかりの地獄の牢獄で、ろくな食事も与えられず厳しい冬の寒さの中死んでいった人も多くいたと聞きました。

様々な差別や偏見のない世の中が一日も早く実現する日が来ることを願ってやみません。

二日目は藤岡市の西蓮寺に寄り、婦人会の方々手作りの素晴らしい布の紙芝居で、親鸞聖人のご生涯を見せていただきました。住職のお話も味わい深く、有意義な二日間を過ごすことができました。

十二月十一日には、成道会法要とバザーが開催され、壮年会としては、竹材による靴ベラと焼きそばの販売を計画しました。

靴ベラは、毎週日曜日に役員が一ヶ月以上を費やし作製し、その出来の良さに評判の良い物でした。

美味い！の声が出なかったら
お代は不要！
仏壮の焼きそば屋さんたち

右端が上岡さん

また、焼きそばも初めての試みでしたが「こんなに美味しい焼きそばはそうそう食べられない」といった声があちこちからあがっていました。

我々作り手としては、一層頑張ろうと、次回はもっと美味しく作りますので、今回来寺されなかったご門徒の方々にも、ぜひお越しいただきたいと思います。

今年に入り、二月十九日・二十日には、東京教区の仏教壮年会連盟結成記念日研修会が鬼怒川で開催され、住職と壮年会の仲間、計五名で参加しました。

講師のお話や他のお寺の方々に刺激を受け、色々考えることがありました。

壮年会に入会して五年、多くのことを学びながら、楽しい日々を過ごしています。

仏教壮年会
第2土曜日・午後6時

仏教婦人会
16日・午後1時

編物教室
第2・第4火曜日　午前10時

※住職指導による、鸞（混声）と新樹会（女声）の仏教讃歌の練習があります。（不定期）

作家・和田芳惠の墓所

母の姉の夫である直木賞作家、和田芳惠の墓所には、文学好きな方々がよくお参りに来られます。

この度、長年気になっていた和田家の法名碑を建てることができ、ホッとしました。

故郷、長万部の墓地の枯れ葉や土を持ち帰ったと、「私の墓」という文章にありました。それで、若くして亡くなった最初の奥さんの戒名も彫りました。その方とお姉さんのお位牌は、伯母がずっと守ってきた仏壇にあったものです。

（由真記）

編集後記

今回の寺報は、お寺を支えてくださっている方々に原稿を依頼しました。いかがでしょうか。

みんな頑張っているなあ……と、他人事のあなた、お寺に来てください。一緒に活動しませんか。

私は、婦人会や壮年会の方々が楽しくおしゃべりをしている様子を見るのが大好きです。真剣にお勤めをされている姿も、もちろん嬉しいです。

阿弥陀さまの救いの前では全く平等の私たちです。お寺が世間と違うのは、そこです。社会的地位は問題となりません。威張りたい人はお寺が嫌いかもしれませんね。

自死問題に関わっていると、「私なんて世の中から必要とされていない」という言葉をよく聞きます。でもそれは間違いです。

仏教的に言えば、どの人一人が欠けても、この世の中は成立しないのです。ジグソーパズルと同じです。

お寺で仏さまの話をしましょう。生きる元気をもらいましょう。お待ちしています。

合掌

発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真（由美子）
カット・大建弘子
（印刷所・阿部印刷）